

〔續日本紀六明〕和銅六年七月戊辰美濃信濃二國之界徑道險阻往還艱難仍通吉蘇路

〔元〕

〔三代實錄三十六〕

〔元〕

慶

三年九月四日辛卯令美濃信濃國以縣坂山峯爲國境縣坂山峯在美濃國惠

奈郡與信濃國筑摩郡之間兩國古來相爭境堺未有所決貞觀中勅遣左馬權少允從六位上藤原朝

臣正範刑部少錄從七位上朝負直繼雄等與兩國司臨地相定正範等檢舊記云吉蘇小吉蘇兩村是

惠奈郡繪上鄉之地也和銅六年七月以美濃信濃兩國之界徑路險阻往還甚難仍通吉蘇路七年閏

二月賜美濃守從四位下笠朝臣麻呂封邑七十二戶田六町少錄正七位下門部連御立大目從八位

上山口忌寸兄人各進位階以通吉蘇路也今此地去美濃國府行程十餘日於信濃國最爲逼近若爲

信濃地者何令美濃司遠入關通彼路哉由是從正範所定

〔新撰美濃志〕

〔美濃二十一郡〕

東のかたなる木曾山は當國惠奈郡の地なりしを貞觀元慶のころ

議定ありて信濃國の筑摩郡につけられしより歌にも信濃なる木曾路とよみならへり

〔木曾路之記〕落合

〔美濃國惠奈郡〕

是より中津川へ壹里

落合の民家九十軒許これより西に猶坂所々にあれども既に深山の中を出て嶮難なくして心

やすくなる

今洲より柏原へ壹里

今洲と柏原の間に長久寺といふ小里あり是美濃と近江のさかひ也車がへしともいふ兩國よ

り家をちかく作りならべ其間に小溝をひとつへだつ國をへだて寝物がたりをするといふ

このゆへに此所をねものがたりとも云

〔木曾路名所圖會〕寝物語里

こゝは近江美濃の國界なり長久寺村にありむかしはたけくら

べといふ此里に義經の愛妾静江田源藏に逢

〔藤河の記〕たけくらべといふはあふみとみのとの山を左右に見て行所なり

〔ふしこう〕

などいふ里診あれども取らず